

2025年12月26日

各 位

株式会社 大垣共立銀行
株式会社 OKB 総研

第1回 名大生命農学研究科・OKB連携アグリビジネスカンファレンス 「ゲノム情報を利用した作物の品種育成 ～ビジネスから国際貢献まで～」の開催

大垣共立銀行(頭取 林 敬治)とOKB総研(社長 小川 真二)は2026年2月6日(金)、国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学大学院生命農学研究科(研究科長 中園 幹生)および東海バイオコミュニティと共同で「第1回 名大生命農学研究科・OKB連携アグリビジネスカンファレンス」を下記の通り開催します。

本カンファレンスでは、ゲノム編集を活用した新品種開発の最前線と、既存産業との共創が生むアグリビジネスの新潮流、地域農業や食品産業への応用、さらには国際的な食料課題への貢献の取り組みについてご紹介します。

OKBは、東海国立大学機構が推進する「Tokai Open Innovation Complex」の理念に賛同し、TOIC岐阜サイト(愛称:OKB岐阜大学プラザ)内にオープンイノベーション創出支援拠点「OKB SCLAMB」を設置しています。同拠点では重点領域(スタートアップ、カーボンニュートラル、ライフサイエンス、アグリ、モノづくり)に注力し、新たなビジネスを創出していくためにさまざまなイベントやプログラムに取り組んでおり、本カンファレンスもその一環として実施します。

記

■「第1回 名大生命農学研究科・OKB連携アグリビジネスカンファレンス」概要

日 時	2026年2月6日(金) 15:00~18:00	
会 場	TOIC名古屋サイト〔愛知県名古屋市千種区不老町(名古屋大学内)〕	
内 容	<p>第1部 事例紹介</p> <p>①先端技術で挑む「未来の植物」創出 －既存産業との「共創」が拓くアグリビジネスの革新－ グランドグリーン株式会社 代表取締役 丹羽 優喜 氏</p> <p>②マーカー選抜育種とゲノム編集による国際貢献について 名古屋大学 生物機能開発利用研究センター 教授 芦薈 基行 氏</p> <p>③ゲノム編集・遺伝子組換え品種の権利化×法令対応×事業化 鈴木知財総合事務所 代表弁理士 鈴木 恵子 氏</p> <p>第2部 ポスター展示・名刺交換会</p>	
参 加 費	無料	
申込方法	右記の専用ページからお申し込みください	
申込期限	2026年1月23日(金)	
定 員	40名	
主 催	OKB大垣共立銀行、OKB総研、名古屋大学大学院生命農学研究科、東海バイオコミュニティ	
お問い合わせ先	東海バイオコミュニティ事務局 二村 TEL:052-789-4186 OKB大垣共立銀行 法人営業部 岩田・北田・土本 TEL:0584-74-2196	

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**



以 上

■東海バイオコミュニティ

東海地域の特徴である産業集積地＝ものづくり地域のアセットを強みとし、バイオものづくりをビジョンに掲げ、バイオエコノミー社会の実現に向けて、产学官金による市場規模の拡大に向けて取り組む多様なステークホルダーが集うコミュニティ。愛知県・岐阜県・名古屋大学など計84団体が参画。

■Tokai Open Innovation Complex (T O I C)

東海国立大学機構が経済産業省の「令和3年度：産学連携推進事業費補助金（地域の中核大学の産学融合拠点の整備）」を活用し、岐阜大学と名古屋大学の両キャンパス内に整備された産学交流・起業活動・共同研究の3つの特徴的な取り組みを展開するオープンイノベーション創出拠点。

ゲノム情報を利用した作物の品種育成 —ビジネスから国際貢献まで—

主催／OKB大垣共立銀行、OKB総研、名古屋大学大学院生命農学研究科、東海バイオコミュニティ
共催／INPIT愛知県知財総合支援窓口 後援／NPO法人東海地域生物系先端技術研究会(東海生研)

本セミナーでは、ゲノム編集を活用した新品種開発の最前線と、既存産業との共創が生むアグリビジネスの新潮流をご紹介します。高糖度トマトなどの事例紹介に加え、国際的な食料課題への貢献、さらには品種の権利化・法令対応まで、研究から事業化までの要点を網羅した農業関連事業者・研究者等に必見の内容です。

定員

40名

参加料

無料

日時

2026年2月6日(金)
15:00~18:00

会場

Tokai Open Innovation Complex
名古屋サイト(名古屋大学内)
名古屋市千種区不老町

第1部

事例紹介

「先端技術で挑む『未来の植物』創出
—既存産業との『共創』が拓く
アグリビジネスの革新—」

グランドグリーン株式会社
代表取締役 丹羽 優喜 氏

名古屋大学発ベンチャーとして、ゲノム編集などの先端技術を活用し、迅速な品種改良による「未来の植物」創出に挑む取り組みを紹介します。高糖度トマトなどの事例を交えながら、既存産業との共創によって技術を社会実装し、新たな価値を生み出す事業戦略とアグリビジネスの最前線をお伝えします。



「マーカー選抜育種と
ゲノム編集による国際貢献について」

名古屋大学
生物機能開発利用研究センター
教授 芦薈 基行 氏

世界的な人口増加や環境変化により食料不足が深刻化する中、アフリカを中心とした課題解決に向け、ゲノム情報を活用したイネの品種改良の最前線を紹介します。従来育種との違いやゲノム解析の応用を解説し、迅速な品種開発による国際貢献の取り組みをお伝えします。



「ゲノム編集・遺伝子組換え品種の
権利化×法令対応×事業化」

鈴木知財総合事務所
代表弁理士 鈴木 恵子 氏



ゲノム編集・遺伝子組換え品種の事業化に不可欠な「権利化×法令対応×ガバナンス」を整理。育成者権と特許の使い分け、職務育成者規程など、研究から上市までの実務ポイントを解説します。

第2部

ポスター展示・名刺交換会

申込方法

二次元コードよりお申し込みください



申込期限

2026年1月23日(金)

問い合わせ先

東海バイオコミュニティ事務局 二村 京子

Email:t-biocom@agr.nagoya-u.ac.jp TEL:052-789-4186